

第4学年C組 外国語活動学習指導案

授業者 HRT 佐々木絵理子

ALT Mark Jones

研究協力者 佐々木 雅子

1 単元名 Let's go to the world!－ What do you want ?－

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

子どもたちはコミュニケーション中心の活動を通して、日本語以外の言語を用いる楽しさを感じる経験を重ねてきている。総合的な学習の時間を通して、留学生やハワイの小学生との交流をする機会を得て、英語だけでなく、英語圏以外の言語や生活にも目を向け始め、日本以外の国の生活様式や使われている言語の違いに気付くとともに、世界の中に広がる多様な生き方や考え方に触れる経験をしてきた。

また、音声を聞き、その音を発話することで再現しようとしたり、英語のリズムを心地よく感じて慣れ親しんだりする活動に意欲的である。さらに、HRT や ALT と英語で会話を続けることにも積極的に取り組もうとしている。

学習中の単元で扱う語句や表現への慣れ親しみが深まる一方で、既習の内容を自在に会話に用いたり、時間が経ってから活用したりしようとしても、思うように話すことができないことが課題として挙げられる。4年生の段階ではそこまで求められるものではないが、この後の外国語学習において既習事項の活用は必要だと考える。実際留学生やハワイの小学生と話す際に自分自身の英語で交流したいと願い、試みる姿が多く見られた。そのことから、本単元では、これまでに慣れ親しんできた語句や表現を駆使して、楽しみながら自分の気持ちを伝えようとする姿を期待する。

(2) 単元について

4年生で学習する内容を総合的に扱う年間計画を作成し、いつでも単元の内容を行き来しながら、英語への慣れ親しみをスパイラルに図れるようにした。また、単元終末だけにActivityを行うのではなく、毎回の学習に言語活動を設定することで、学んだ英語をどのように使っていくのか具体的に捉えながら慣れ親しめるようにした。

本単元における「学びのデザイン」は、自分の欲しい物や使いたい英語表現を子ども自身が設定することからスタートする。何のために、どのような表現を使うのかという目的や方法を明確にもつことができる。前単元までの語句や基本的な表現に慣れ親しむ活動は、授業の中に継続して取り入れることで、それらを用いながら活動を進めていくことができるようにした。1単位時間が進むたびに新たなミッションが発動したり、品物の種類や単価が変動したり、得られる報酬が変わったりするといったゲーム要素を盛り込むことで、状況に合わせた会話を成立させるために、予定調和的なやり取りではなく、自分の知る限りの英語を引き出しながらやり取りすることをねらいとしている。そして場面や状況に応じて必要な語句や表現を選択・決定する姿を「学びのものさし」を働かせている姿と捉える。

また、「Let's Try 2」の内容は使用語句が共通していたり、英語の言い回しが似ていたりする単元が多く、それらを総合的に扱うことが可能であると考え。似ているからこそ、どの場面で使えばよいのか、自分の言いたいことがどの表現なのかを考えながら話す必要が生じる。そのことが、今後の学びにおいて英語を即興的に話すことの素地にもつながるものと期待できる。

これらを踏まえ、目的をもってこれまでに慣れ親しんできた英語を駆使して自分の気持ちを伝えようとするという資質・能力を高めることを目指す。

(3) 指導について

研究の重点一つ目との関連から、相手に伝えようとする強い思いをもち、自分で表現の仕方を選び取って活動することができるように、単元のスタートでのゲームやインタビューなどの活動を通して、自分の欲しいものを選択する活動を位置付け、その目的の達成のために自分が習得するとよいであろう新たな語句や表現、また手に入れるための方法を予想する。例えば、自分の手に入れたい物が高価な物や貴重なものである場合には、その価値に応じた報酬を得るためにミッションをクリアしていく必要があるし、安価であった場合には、種類や個数を増やして手に入れることができるだろう。ゲームの要素を取り入れ楽しみながらも、学習時間を存分に「英語で話す活動」に費やすことで、より慣れ親しみを深めることにつなげたい。

研究の重点二つ目との関連から、モデル提示をデモンストレーション形式だけではなく、ICT 機器でいつでも必要な時に確認できるようにすることで、自分に必要な表現を個々の学習に応じて獲得することができる場を設定する。他者とかかわり合いながら、用いた英語の表現を振り返り、自分にとって獲得すべき知識・技能を選択し、それらを次の活動に生かしていくことができるようにするためである。即時的に変化する状況の中で、その時に必要な英語はどのようなものか判断し、自分の中の英語の引き出しから言語材料を取り出して会話を生み出す姿へとつなげていく。

3 単元目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

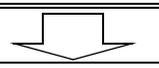
- (1) ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句や基本的な表現を聞き取ったり、話したりする。 〈ア・1・3〉
- (2) サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。 〈イ・11・13〉
- (3) 慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の語彙を用いて、実際のコミュニケーションにおいて活用しようとする。 〈オ〉

4 単元の構想 (総時数 4 時間)

Let's Try1 (3年) Let's Try 2(4年) Unit 1 ~Unit 6
 サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価(本校の資質・能力との関連)
1	(1) 自分の欲しい物を選び、それを手に入れるために必要な言語材料について予想する。 ・少し高そうだけれどあのゲームが欲しいな。 ・このミッションだったら自分も進んで話せそうだな。どんな英語で話したらいいだろう。	・活動の目的を明確にもつことができるように、事前の実態調査から欲しい物のリストを作成し、活動内容を設定する。 ・ミッションをクリアするために必要な言語材料について問い、既習内容を想起させたり、自分が使いたい表現について確認したりする。	・自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。 〈イ・11〉
2	(2) 自分に必要なポイントを獲得するためにそれぞれのWorldミッションに取り組む。	・ミッションを通してこれまでに慣れ親しんだ語句や表現を使うことができるような内容を設定する。 ・いつでも表現を確かめられるようにICT機器を用いたモデル提示の場を設定する。	・ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句や基本的な表現を聞き取っている。 〈ア・1・3〉
— めあて —			
自分の欲しいものを手に入れるために、必要な英語を選んでやり取りをしよう。			
3 本時	(3) 自分の欲しいものを手に入れるために、Worldミッションに取り組み既習内容を使ってやり取りをする。 ・前に同じような活動をしたから、同じ言い方でクリアできそうだな。 ・前はあまり話せなかったから、今回は他のミッションでたくさん欲しい物をゲットしたい。 ・どのように話していいかわからないから確認したい。	・複数の異なるミッションを準備し、やり取りの相手や内容に変化をもたせることで、その場で考えながら会話を続けられるようにする。 ・ICT機器を用いたモデル提示の場を設定し必要な時に表現を確かめられるようにする。 ・複数の異なるミッションや、ミッションの追加、品物の増減でやり取りに変化をもたせ、その場で考えながら会話を続けられるようにする。 ・目的達成の意欲喚起のために、ミッションの途中で質店を開店させ、品物の交換タイムを設ける。	・目的をもってこれまでに慣れ親しんできた英語を駆使して自分の気持ちを伝えようとしている。 〈オ・11・13〉
4	(4) 自分が獲得したポイントを使い、手に入れた物や欲しい物を伝え合う。 ・自分が欲しいと思っていた品物が手に入ったよ。I have~で伝えてみよう。 ・ミッションをクリアできなくて、欲しいものが手に入らなかった。I want~, を使って話せるかな。	・ミッションで使用した語句や表現を振り返ることができるように、蓄積したミッションごとのカードをノート (English Passport) の活用を促す。 ・自分の手に入れたものや欲しかったものを友達に紹介する場を設定することで、友達と学習の成果を情報交換する場を設ける。	・自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。 〈イ・11・13〉

◎本単元で育む主な資質・能力
 目的をもってこれまでに慣れ親しんできた英語を駆使して自分の考えや気持ちを伝えようとする。(オ・11・13)



Let's Try 2 (4年) Unit8 This is my favorite place. Unit 9 This is my day.
 慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の語彙を用いて、実際のコミュニケーションにおいて活用しようとする。

5 本時の実際 (3/4)

(1)ねらい これまでに慣れ親しんできた語句や表現に着目し、英語を駆使してミッションをクリアしようとする活動を通して、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。
(オ・11・13)

(2)展開

○「学びのものさし」を働かせて省察したり、自律的に学習を進めたりするための支援

時間	学習活動	教師の支援 評価
5分	① 前時の学習を振り返り、自分のめあてを確かめる。	・前時の活動で達成できたことや不十分だったことを確認することで、本時のめあてにつなげる。
	めあて _____ 自分の欲しい物を手に入れるために、必要な英語を選んでやり取りをしよう。	
35分	② 自分の欲しい物を手に入れるために、内容やカテゴリーを選択してミッションに取り組む。 〈予想される子どもの反応〉 【既習内容を使うことが難しい。】 ・どのように話したらいいか忘れてしまったから、一度タブレットを見て確認しよう。 ・言い方がよく分からないから、友達が話しているのを聞いてみよう。 ・品物が思うように集まらない。このままじゃ欲しい物が手に入らない。 【言語の違いや時差に気付いている。】 ・あいさつはどの国の言葉でしようかな。 ・日本のカードは今の時刻と同じだけど、他の国は時刻が違うんだな。 【やり取りの相手を意識している。】 ・この友達はサッカーをいつもしているから、誘うと OK と言ってくれそうだな。 ・ただ当てるのは難しいから、その物を好きかどうか聞いてみようかな。 【既習の語句や表現を駆使できる。】 ・必要な表現を選んで使い、どんどん欲しい物をゲットしていこう。 ・この場面でも I want ~ を使えるね。	○ICT機器を用いたモデル提示の場を設定することで必要な時に表現を確かめられるようにする。 ・自分のやり取りの成果が実感できるように、獲得した品物やポイントを絵カードやサインなどで可視化し、確認できるシートを準備する。 ○複数の異なるミッションを準備し、途中でミッションを追加したり、ポイントを増やしたりしてやり取りに変化をもたせることで、その場で考えながら会話を続けられるようにする。 ・途中で ALT がトレード店 (Trade Mark) を開店し、自分で集めた品物を交換できる場を設ける。 【ミッションの例】 [Mission 1] Hello!world. お互いに選んだ国の言葉で友達とあいさつをしよう。 [Mission 2] Let's play tag! 友達に自分の好きな遊びを伝えて、遊びに誘ってみよう。 [Mission 3] What time is it ? 友達のカードの国の時刻を聞いて、その国がどこか予想しよう。 [Mission 4] Do you have a pen? 友達のカードに描かれている文房具を予想して尋ねてみよう。 [Mission 5] Do you have a S? アルファベットがあるかをたずねて、選んだ品物を当てよう。
5分	③ 本時の学習を振り返る。 ・前はどのように話したらいいのかわからなかったから、自分ができるミッションだけをしていただけだけど、今回は違うミッションにも挑戦することができた。 ・一つのミッションでも会話がたくさん続いて楽しく活動できた。 ・ミッションをクリアするために、前の活動を思い出して、話す内容を考えたり、英語で伝えたりすることができた。	○既習の語句や表現を用いることで、やり取りが続くことや、繰り返し話すことで慣れ親しみが深まることを実感することができるように、品物の量だけではなく、やり取りの内容について振り返りの視点を提示する。 ○本時の導入時に確認した前時までの学びを取り上げ、本時の学びを価値付けたり、次の課題につなげたりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">目的をもち、これまでに慣れ親しんできた英語を駆使して自分の考えや気持ちを伝えようとしている。 (オ・11・13) (観察・発言・ノート)</div>

令和6年度 外国語科・外国語活動実践・研究計画

部 員	○佐々木 絵理子、工藤 優花、丹 理人、山崎 麻絵、石田 智之、山田 幹
-----	--------------------------------------

研究テーマ
自分の考えや気持ちを伝えたいという強い思いをもって、外国語を用いたコミュニケーション能力を高めようとする子どもを育む学び

1 研究テーマについて

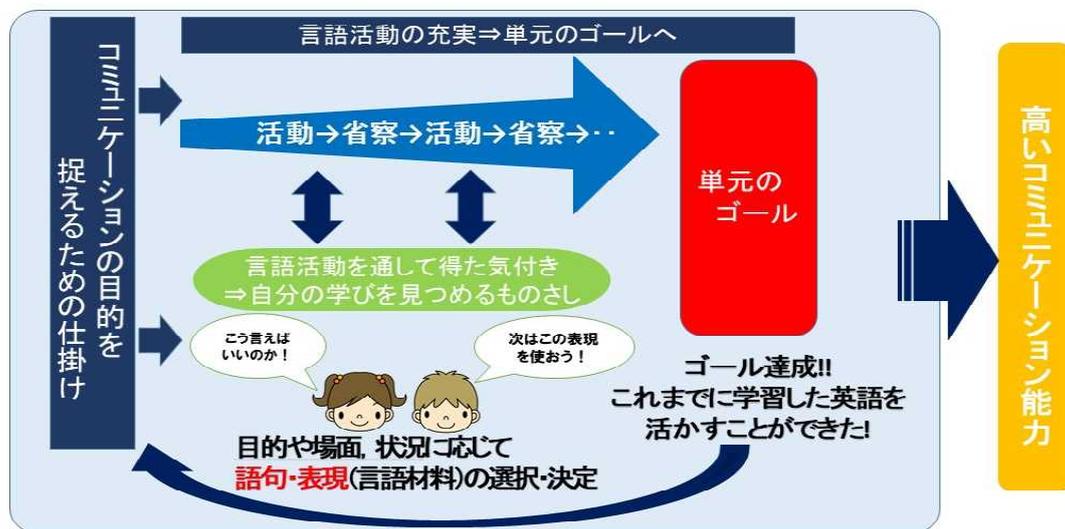
昨年度の実践では、ゲーミフィケーションを取り入れたり、単元や他教科の内容を組み合わせていたりすることによって、場に応じた言語材料の幅を広げることを目指した。外国語を用いて考え、目的や相手に応じて、その場でのやり取りを何とか成功させようと伝え方を変えたり新しい語彙を知ったりすることは、使える言語材料の幅を広げ、学びのものさしを更新するのに有効であった。

また、ICT機器やポートフォリオ（学習の成果物）を活用して内容面や言語面での気付きの記録を生かしながら、次の学びにつながる省察の場を取り組んだ。さらに発表の際、より他者に伝わりやすい資料を選ぶことで、それを手掛かりとして必要な表現を用いて話すことができた。やり取りや発表を音声や動画で記録に残すことは、自分の学びをふり返り、学びのものさしを更新する材料となった。使用したシートや発表資料などの学習の成果物が手元にあることで、いつでもこれまでの学びを活用することができ、話すときの素材になる。これらの蓄積が学びを促進させるとともに次の活動につながった。しかし、実際のやり取りの場において、相手に配慮してコミュニケーションを図りつつ、表現の幅を広げることには課題が残った。子どもが語彙を増やしたいと思うのは、その必要が生じた時である。伝えたいという思いを新しい表現の獲得につなげていく活動が重要である。

こうした現状を踏まえ、外国語を用いて伝え合うことに喜びを感じ、主体的にコミュニケーションを図っていく姿を期待し、本研究テーマで実践を積み重ねる。

外国語科・外国語活動で目指す自律した子どもの姿

- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、必要な語句や表現、方法を選択・決定し、言語材料を駆使して伝え合う子どもの姿
- ・外国語を用いて相互に理解し合う自然なやり取りの中で、相手に配慮しながら、伝えたいという強い思いをもって、表現の幅を広げる子どもの姿



図：外国語科・外国語活動 自律した学習者を育てる学習のプロセス

2 研究の重点 <○は具体的な取組の例>

伝えたいという強い思いをもつコミュニケーションの実現に向けて、自らの学びのものさしを働かせながら学びをデザインしていくための手立て

- 相手に伝えようとする強い思いをもち、子どもが使いたい表現や方法を選択・決定しながら、成功体験を積み重ねることのできる活動の工夫。
- モデル提示や他者との関わりを通して、必要な表現の幅を広げていくための学びのスタイルの構築。

令和6年度「外国語科・外国語活動の資質・能力」表

※□は取り扱い学年、■は定着学年を示す。

内 容		学習指導要領との関連内容		3年	4年	5年	6年	
		3・4年	5・6年					
外国語科・外国語活動の 学びに向かう力、人間性等	ア	外国語の音声や文字、基本的な表現に慣れ親しもうとする。	全般	全般	□	□	■	■
	イ	よりよいコミュニケーションの仕方を意識して、進んで話したり聞いたりしようとする。	全般	聞くこと 話すこと[やり取り]	□	□	■	■
	ウ	外国語の文字や基本的な文のしくみに関心をもち、進んで書こうとする。		書くこと			■	■
	エ	慣れ親しんだ音声と文字を関連させて、基本的な表現・語彙からその意味を推測しながら読もうとする。		読むこと			■	■
	オ	慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の語彙を用いて、実際のコミュニケーションにおいて活用しようとする。	全般	全般	□	□	■	■

各領域の付けたい力 聞くこと	1	ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取る。	(1)ア		□	□	■	■
	2	ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる。	(1)ア				■	■
	3	ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かる。	(1)イ		□	□	■	■
	4	ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができる。	(1)イ				■	■
	5	文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かる。	(1)ウ		□	□	■	■
	6	ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができる。	(1)ウ				■	■
各領域の付けたい力 読むこと	7	活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができる。	(2)ア				■	■
	8	音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かる。	(2)イ				■	■
各領域の付けたい力 話すこと[やり取り]	9	基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりする。	(2)ア		□	□	■	■
	10	基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができる。	(3)ア				■	■
	11	自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合う。	(2)イ		□	□	■	■
	12	日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。	(3)イ				■	■
	13	サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりする。	(2)ウ		□	□	■	■
	14	自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる。	(3)ウ				■	■
各領域の付けたい力 話すこと[発表]	15	身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話す。	(3)ア		□	□	■	■
	16	日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。	(4)ア				■	■
	17	自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話す。	(3)イ		□	□	■	■
	18	自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。	(4)イ				■	■
	19	日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話す。	(3)ウ		□	□	■	■
	20	身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。	(4)ウ				■	■
各領域の付けたい力 書くこと	21	大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができる。	(5)ア				■	■
	22	自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができる。	(5)イ				■	■

<外国語科・外国語活動>の学びを深める「見方・考え方」

- a よりよいコミュニケーションのために「言語」に着目し、外国語の音声、文字、単語、表現、語順などに慣れ親しむ。
- b よりよいコミュニケーションのために「文化理解」に着目し、外国語や相手、それらの背景にある文化を尊重し、相手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。
- c よりよいコミュニケーションのために「コミュニケーション方略」に着目し、言語の働き・役割を理解するとともに、非言語も含めた伝え方・聞き方の工夫をしようとする。

<各領域の学びを深める「見方・考え方」>

- d 聞くこと 相手が伝えようとする話の内容に着目して、類推しながら大切な事柄が何かを考えて聞く。
- e 読むこと アルファベットの並びに着目して、音声で慣れ親しんだ基本表現や語句の意味が分かり、発音する。
- f 話すこと[やり取り] 話題の内容や相手の表情などに着目して、基本的な表現や自分の知る範囲の表現、伝え方の工夫を組み合わせを考えて話す。
- g 話すこと[発表] 話題の内容に着目して、伝えたいことを整理して基本的な表現や伝え方の工夫を組み合わせで話す。
- h 書くこと 例文や語順に着目して、音声で慣れ親しんだ基本表現や語句を組み合わせで書く。